時事新報

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊無し

時事新報定價

時事新報へ一年三百六十五日一日も休刊セズ其代價還元料廣告料ハ左ノ如シ

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓

〇時事新報計り或種ニ部宛ニテ発送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ雲送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上
一行単位付	十二錢	十一錢	十錢五厘

月曜日并に大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ず此場合には新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に貼用する郵便印紙の代價を申受く可し

第二千六百九十七號
明治廿三年六月廿六日（木曜日）
書暦庚寅五月十日（戊寅）
月出午前四時二十八分　入午後六時五十九分
月入午後零時十二分
晴雨　午前十一時零六分　午後十一時三十三分
（西暦一千八百九十年）

時事新報

農商務省の省是を定む可し（前號の續）

今後農商務省にては其省是を一定し職業興利を人民に任じて毫も喙を容れざるに引き替へ農商工業の不利と爲り又妨害と爲るものに就ては其事の政府に出づると又民間に起るとに論なく農商工の爲めに謀りて其利害の所在を究め才臺の得失をも爭ふて聊か假借する所なく農商工を代表し其利害を護衛するを以て農商務省の特色と爲さゞる可らざれども今事の實際に當りて之を實行に現はさんと欲せば農商務省を政府中一種獨立の省と爲し政府にも附かず人民にも附かず屹然みの両間に立て農商工業者の干城と爲り此三業に關係する政府の一挙一動は眦目を瞬ず注視して苟くも三業に不利あると見れば極言盡力之を排除するみとを勉めざる可らず例へば大藏省に於て後來發布せんとする新税法に就き或は現今の税則にても清酒税の如き菓子税の如き苦情多端なる者に就ては其都度情狀を穿鑿して實際當業者の迷惑となるものあらば正々堂々の陣を以て進んで之を救正せざる可らず特に收税の時期等は僅々一箇月乃至半箇月の遲速にても其實業家の營業上若くは會計上に於て容ふ可らざる不便を生ずるみとあるが故に凡そ此邊の情實に就ては平常十分に研究し置きて農商工の頭上に不慮不利の差掛るに際し一木大厦の覆へるを支へて塵民の安寧を擘かざる可らず平たく政府内の情實を云へば陸海軍省は其軍備を盛んにせんとして成る可く費額を多くせんとし外務省は外交の爲め文部省は學事の奮め其他各々受持の事務に多くの金を支出して其事務の擧らんとを欲せざるものなく隨て財政の本源たる彼の大藏省に於ても此等の需要に應せんとして種税を賦課し又之を徴收するの手加減に寛嚴度を失するの場合なしと云ふ可らず人々己れの爲にするは今の浮世の人情にして是れ亦免る可らざる次第なるが故に此處ヲ即ち農商務省の職分、彼の種税の賦課法等に於て何なり農商工の不利と爲り又妨害と爲るものあらば爲に代言の勞を辭せず充分利害を辨説して其不利妨害を調和し或は之れを減少するの覺悟なかる可らず農商務省にては既往の實績を顧みて果して此種の職分を盡くしたりと信ずるものあるやなきや彼のプールス法の如き實際に行ふ可らざるものを發して商場所を顛覆せんとするものにして商民の利益を害し其私有權を犯すみとなるのみにして甚だしきはなし故に斯る新法が政府中の他の部分より發せんとするみとあらば農商務省は力を盡して防禦にみそ忙はしくす可き筈なるに實際は之に反しプールスの出處は農商務省にして其防禦は扨置き却て主張者の位地に在りと云ふ實ふ驚入たる次第にして我輩を以て見れば同省の働は主客轉倒を易へたるものと云ふの外なし然るに近來空谷の足音も許する可き一報を聞くに我搗刷木の支那輸出は年々増加の勢を呈し赤燐マッチ即ち安全擦附木の方は外國并に支那製品を壓倒して今や市場の全權を握りたるが故に尚ほ此上にも彼の地方にて使用する黄燐マッチ（量の線などを驅りて火を發する者）を輸出して其市場をも制するに至らば廣大なる支那のマッチ市場は總べて日本商の手に歸す可しと雖ども我内務省にては黄燐マッチは有毒にして口に觸て害ある可しとて重に衛生上の考を以て其製造販賣を禁止したるが爲め我マッチ製造者は輸出販賣の市場を眼前に見乍ら大利益を空ふするとて每々嘆息する所ありしが先般農商務省にては此に見る所ありしにや黄燐マッチ製造輸出の件に就き内務省に照會して利害を説明する所有りしと云ふ實に同省の行事中、千百に十一を得易らざる者にして職分相當の注意振興とも申す可く我輩は我農商務省が今後專はら此種の事務に出精せんとを希望して止まざる者あり扨又海外貿易に就ては利害の關係廣くして農商務省が實業家の爲めに心を盡す可きもの少あからず特に彼の領事館の如き從來專はら外務省に屬して農商務省との緣因甚だ遠く農商務省が海外商工業上の事に就き其調査を各領事に依頼せんとするの場合などあれば先つ之を外務省に托し其手に由りて始めて領事に達するの順序あるが故に徒に中間の媒介を多くして隔靴の嘆あるを免れず又彼の領事の報告類は悉く外務省中に集まり其中時に官報に掲載せらるゝものあれども一旦農商工に關係ある外交部分の手に落つれば領事が多少の丹精を費らして折角調査したる諸書類も故紙堆中に埋まりて我實業家の耳目に達せざるもの多し遺憾なりと云ふ可し蓋し我政府より海外諸國に公使を送るは外交事務上の關係に出づる者なれども領事を各國に派遣するは外國通商上の便宜に由るものなる可し兩三年前の事なりと覺ゆ英國倫敦府知事が各國公使領事を饗應したる其宴席の演説中に公使は夫れ〳〵の國を代表して英國女皇陛下の朝に使するものなれども倫敦府内に駐在する領事は其國通商上の利害を代表して斯く申す倫敦府知事の職に使するものあり云々の語ありしが如何にも然り領事にして通商上の利害を代表する以上は農商務省は從來の如く之を路人視す可らず或は領事支配の權を農商務省に引き纏め實際農商工の爲めに謀りて有用に之を利用するか然らざるも尚ほ其緣を近くして其人物の撰擇等は農商務省の職權内に含包するみと至當なる可し斯の如く農商務省に於て農商識術の省是を定め興利勸業の念を絶ちて力を除害の一方に專らにせんとすれば今の日本の實際に於て其事の繁多ある固より枚擧に暇あらず此繁多の事に當りて農商工の利害の爲めに着々その歩を進むるときは農商務省は無用なり斷然之を廢せざる可らずなど云へる苦情あるに引き替へ全國農商工の爲めに謀りて有用必需、政府諸省中最も重要なる一省として千萬年も其位地を保つとを得べし我輩の所見此くの如し、知らず當局者以て如何と爲す

（完）

雜報

○遠に鑛夫を呼歸すべし　日秘鑛山會社の目的全く相違して既に其社は解散したれども高橋田嶋等の諸氏に從ふて該地に赴むきし鑛夫等は何時頃歸るべきや聞説く秘露國は南米邊境の新開國として秩序未だ整はず政令普く行はれず生命財産の安全は專ら己れの力の有無に在りて腕力是權利と云ふが如き風なれば奴隷賣買の如きも今尚ほ行はれて黒人一名に付五百弗の價あり日本人あらば二ッ返事で六百弗位を拂ふならんと云ふ現に維新後間もなき頃、若干の日本人を連れ行かんとして果す能はざりし事あり左れば今尚ほ該地に殘る數十名の鑛夫等は波濤萬里の遠方に扶助を求むる昧方なく油斷する間に復欺むかれて金に換へらるゝが如き事ありては本人共の不幸は勿論、會社員が彼等に對し又世間に對して合す顔はなかるべし此を思へば一刻も早く呼歸さゝるべからず既に一たび欺むかれては前日の覆轍を後悔するのみ再び過を犯すものなかるべければ當局者に於て此邊の注意はあるみとならんあれども甚だ氣遣はしき次第なりと該地の事情に詳しき内外人は頻りに噂し居ると云ふ

○常備艦隊　目下横濱に碇泊せる常備艦隊の各艦は來月五日を期し四箇月間航海の準備を爲し北海道近海に向け航行し或る場處に諸艦集合して色々重要の演習を爲す計畫もありといふ

○修學旅行生徒の出省　熊本縣葦常師範學校長佳田昇氏外職員七名生徒百四名、愛知縣同校教頭二宮正氏外職員二名生徒十二名、廣島縣同校教諭中嶋次郎吉氏外職員十二名生徒五十八名は一昨廿四日午前十時頃より文部省に出頭し修文館に於て辻文部次官へ面晴し同次官は學事奬勵の演説を爲したりと

○入場券交付　衆議院議員の撰擧迫りしに付府下各郡區役所にては昨廿五日より右議員撰擧人諸氏へ入場券を交付するよしあるが右入場券の表面には撰擧人の姓名を記入ありて其姓名の下へ實印を押し七月一日撰擧場へ持參して撰擧掛り長より順次番號券と引替る都合なりと

○女子を國會議員に撰むべし　佛國のガストと呼べる老年の下院議員は憲法を改正し女子に立法行政權を與ふる法を案出して云く余は上院議員の數三百人を二百人に、下院議員五百八十四人を四百人に減じ男女を問はず等しく上下兩院の議員たるを得せしめ被撰者の年齢を四十歳以上となし又女子をして大統領并に副統領に當選するの資格を得せしめんと欲すと

○立會の品評會　衆議院議員の撰擧期日も最早旬餘を出でざるの間際とありたれば各縣下とも候補者の撰定に忙がはしく此所の集會彼所の懇親會と屢々の會合に農事の多忙も打忘れ甲部にて太郎兵衛を撰擧すると云へば乙部にては是非權兵衛を擁出すべし豕と互に肩を怒らして張り合ふ中ものありとか既に此頃撰擧會を開きしに甲て議論百出何時果づ見の間答は一時見合候補者たる人物の品評を確定するとに一決し

○ラーロ夫人の歸國　ラーロ氏の夫人は今度近々一人を先づ歸國す知己の人々を招待し

○絲價の騰貴　横濱紀組織する處なるが此しにも拘はらず各館れ去る廿三日より盛相應に出來たるが内さんとするより兎角價格もヅリ〳〵騰貴百二十二弗半、遠州あり此桐花組は去る弗方の高直なり又去良原社の座繰新絲の隨分好賣あり斯く有盛二十四日は又々概國向の品は本日ゲー落付き手合も昨日は にては出帆後も敢て第に今一層價格のあり畢竟今日斯くの等の蘭絲收獲が見込兎に角新絲早々此の者の一大幸福と云ふ前迄に手合とありし弗にて甲百六十四番百八十弗にて乙九十百六十弗にて同番へ廿二弗半にて同番へ百七十弗にて英一番六十弗にて乙九十番他は皆佛國向きなり

○磯草米廣の拂下米　外國精白米七千袋の にても五千袋の入札洋米の都合に依ると日六日位を隔て〳〵今に記す目下季候の先川出し米をあす模樣方を引緩め期米も安との聞もあれば右等なば米持筋も賣散しの形狀を見さる内に安氣筋は騰り合へ

○酒田港の輸出米　本年三月二日より本たる米穀の俵數は左一米二十六萬三千（七萬四千）（十八萬九
内譯